

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 インターカルト日本語学校

1. 事業名称

生活者としての外国人と共に支え合うための日本語教育プロジェクト

2. 事業の目的

今年度も「生活場面とのつながり」「社会参加」「課題解決」「対話による相互理解と協働」「外国人当事者の参画」「自己表現」をキーワードとする。その達成のために、外国人(学習者としての外国人と、すでに日本社会で生きる外国人)、日本人(日本語指導者と、近隣に住む日本人)、それらすべてが参画する形で成立する「日本語教室」の開設。標準的カリキュラム案の普及を目的とし、地域において中心的担い手となる「人材の養成・育成」、生活者としての外国人のニーズにあった「学習教材」プログラムを作成していく。企画にあたっては、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案、ガイドブック、教材例集、能力評価を参考にし、地域に根ざした独自の、効果的・実践的なプログラム内容の完成を目指す。

3. 事業内容の概要

台東区の交流促進課からボランティア講座の委託を受けていることもあり、地域に必要な日本語教室について話す機会を設ける。その際に「標準的カリキュラム案」の内容を示しながら、国が地域で求めている日本語教室のありかたなど内容を理解してもらう。当校が行っている日本語教室の様子を示し、今後台東区が日本語教室を行う上で、当校と協力しながら運営する体制を作っていく。学習者には日本語教室を通して、日本語だけではなく日本の文化、習慣を理解してもらう。近隣の人たちを招いて、学習者の国の文化や習慣の紹介など近隣の人たちと定期的に接点を持つ機会を主催者側が企画する。当校のある地域は商店街や飲食店が多くあり、商店街の会長、副会長とのつながりを生かし、近隣への告知の協力をお願いする。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 5月25日 10:00～ 12:00	2時 間	インターカルト 日本語学校	西原鈴子、加藤早 苗、谷口真理、田栗 春菜	①日本語教室の運営計画 ②外国人による講座の検討 ③行政との連携の回り方に関して	①今年度の日本語教室運営計画(主にボランティアの受け入れ体制について)を立てた。 ②外国人の「エンパワメント」を達成するための取り組みに関して検討した。コミュニティの特性を活かした講座を開講することに。 ③行政・他団体と連携を取るための方法を検討した。

5. 日本語教室の実施

(1) 講座名称 生活のための日本語教室 ～日本語を楽しく学ぼう！～

(2) 目的・目標

地域との関係が希薄な外国人、地域との関係がありながら日本人の社会に溶け込めない外国人が地域社会と密接につながりを持ち、その中で地域の一員として生活し、日本人及び他の外国人たちと共に日本社会で生きていくために必要な日本語能力を養う。また、日本の文化・社会・習慣の体験を通してその理解を深め、地域社会に参加し、地域での生活を円滑に行えるようにする。また、主催者側が地域の日本人とつながりを作るための機会を定期的に作ることで、地域の住民である意識を芽生えさせる。

当日本語教室をサポートする立場となる者についても、対象外国人の目標達成に向けての支援をすることによって各々にとつての副次的な成果が表れるようにするものとする。

1)すでに地域での生活を行っている外国人は、地域の日本人と共同に取り組む参画することによりさらに日本社会及び日本人との結びつきを密接にする。そして教室、ひいては地域における自己の発信によって自分自身を日本社会に根付かせるきっかけを作り、生活をより豊かなで多岐多岐のものにする。

2)地域に住む日本人は、日本語教室に参加することにより、地域に住む外国人の存在を理解することで、外国人と共に支え合うという意識を育み、同じ地で生活する存在であることを理解する。

(3) 対象者 台東区、または近隣に住む外国人

(4) 開催時間数(回数) 78.5 時間 (全 38 回)

(5) 使用した教材・リソース

【教材】

・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案』

・本事業前年度(平成24年度)に作成した『台東区に住むお母さんのための日本語学習教材』

(6) 受講者の総数 34 人

(出身・国籍別内訳 インド：27人、中国：2人、香港：2人、台湾：1人、モンゴル：1人、エルサルバドル：1人)

(7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 5月22日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	12人	インド(10 人)中国(2 人)	家族	自分の家族を紹介し、家族の学校や 仕事について話す。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、木村めぐみ、岡田 春香、渋谷香織
2	平成25年 5月29日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	15人	インド(13 人)、中国(2 人)	趣味・好きな こと	自分や家族の趣味・好きなことにつ いて話す。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、木村めぐみ、岡田 春香
3	平成25年 6月5日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	14人	インド(13 人)、中国 (1人)	防災①	地震発生時に取るべき行動を確認 し、緊急時の指示表現を学習する。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、木村めぐみ、岡田 春香、渋谷香織
4	平成25年 6月12日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	11人	インド(10 人)、中国 (1人)	防災②	防災袋に準備しておくべき物を確認 し、現在どれくらい準備ができてい るか話し合う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、岡田春香、渋谷香 織
5	平成25年 6月19日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(8 人)、中国(2 人)	防災③	地図を用いて自分の家や家族の勤 務先、通学先の位置を確認し、地震 発生時の避難場所について話す。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、岡田春香
6	平成25年 6月26日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(8 人)、中国(2 人)	★課外活動 「防災セン ターへ行こ う！」	課外活動として東京都北区防災セン ターへ行き、ビデオ学習や地震体験 をする。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、税所久美江、岡田 春香
7	平成25年 7月3日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(8 人)、中国(2 人)	病院①	初診受付での指示表現を学習する。 実際に問診表を書いてみる。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子
8	平成25年 7月10日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	11人	インド(9 人)、中国(2 人)	病院②	病気表現を学習する。医者の診察を 受けるロールプレイを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、渋谷香織、松島昭 子
9	平成25年 7月17日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	12人	インド(10 人)中国(2 人)	★保健所の 講義「食中毒 について」	台東保健所の方による「食中毒」に 関する講義を聞いて、食中毒に対す る予防法について話し合う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子
10	平成25年 7月24日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	11人	インド(9 人)、中国(2 人)	薬局	薬の「用法、用量」に関する表現を学 習する。処方箋薬局でのロールプレ イを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、中井利 与子
11	平成25年 7月31日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	12人	インド(10 人)中国(2 人)	ドラッグストア	ドラッグストアで、症状を説明し薬を 求めるロールプレイを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、渋谷香織、中井利 与子
12	平成25年 9月4日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	12人	インド(10 人)中国(2 人)	移動①	自分がよく使う電車の路線について 話し合う。駅で駅員に目的地への行 き方を尋ねるロールプレイを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、中井利 与子
13	平成25年 9月11日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(9 人)、中国 (1人)	移動②	道案内の表現を学習し、学校から自 分の家までの行き方を説明し合う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子
14	平成25年 9月18日 10:00～1 2:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(8 人)、中国(2 人)	★課外活動 「スピーチ大 会に参加しよ う！」	課外活動として、インターカルト日本 語学校のスピーチ大会に参加する。 前回までに学習した表現を用いて、 会場まで移動する。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、中井利 与子
15	平成25年 9月25日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(8 人)、中国(2 人)	旅行	日本、自国での旅行の思い出を話し 合う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、中井利 与子
16	平成25年 10月2日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	11人	インド(9 人)、中国(2 人)	買い物①	自分の住んでいる地域のスーパー の情報を交換し、目的に合わせてど の店舗へ行っているか話し合う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子
17	平成25年 10月9日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(9 人)、中国 (1人)	買い物②	スーパーで店員に質問する際の表 現を学習し、商品の場所や原材料に ついて尋ねるロールプレイを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、綿貫安 佑子
18	平成25年 10月16日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(9 人)、中国(1 人)	買い物③	衣料品に関する表現を学習し、服飾 店で店員に試着を申し出たり、色・サ イズ違いのものを頼むロールプレ イを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、綿貫安 佑子、吉新和歌子
19	平成25年 10月23日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	11人	インド(9 人)、中国(2 人)	買い物④	次回スーパーで買い物をする準備を する。買い物の表現、店員の質問項 目などをロールプレーで学ぶ。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、綿貫安 佑子、吉新和歌子
20	平成25年 10月30日 10:00～ 13:00	3時間	インターカ ルト日本 語学校	11人	インド(9 人)、中国(2 人)	★課外活動 「スーパーに 行こう！」	課外活動として、近くのスーパーへ 行き、買い物をする。実際に店員に 質問してみる。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子
21	平成25年 11月6日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(8 人)、中国 (1人)、モン ゴル(1人)	郵便局	荷物を送る際の方法や料金、表現を 確認し、郵便局で荷物を送るロール プレイを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、中井利 与子

22	平成25年 11月13日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(8 人)、中国(2 人)	不在配達通 知	不在配達通知が入っていた場合の 対応方法を確認し、再配達希望の電 話をするロールプレイを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、中井利 与子
23	平成25年 11月20日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	11人	インド(9 人)、中国(2 人)	コンビニ	よく使用するコンビニや、コンビニの サービスについて話し合い、店員と やり取りするロールプレイを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子
24	平成25年 11月27日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(8 人)、中国(2 人)	ATM	銀行や郵便局のATMの日本語での 使用方法を確認し、機械等の使い方が わからない場合の尋ね方を学習す る。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、中井利 与子
25	平成25年 12月4日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	11人	インド(9 人)、中国(2 人)	料理①	おせち料理について話し、自国の料 理を紹介し合う。料理を説明する際 の表現を学習する。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、中井利 与子、吉新和歌子、綿貫安佑 子
26	平成25年 12月11日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	12人	インド(10 人)中国(2 人)	料理②	料理に関する表現を学習し、自国の 料理の作り方を説明する。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、中井利 与子、吉新和歌子
27	平成25年 12月18日 10:00～ 13:30	3時間30 分	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(9 人)、中国(1 人)	★料理持ち寄 りパーティー	料理を持ち寄って年末のパーティー を行う。それぞれが作った料理や、 持ってきた食べ物について説明した り、感想を伝えたりする。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、税所久美江、松島 昭子、中井利与子、綿貫安佑 子
28	平成25年 1月8日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	11人	インド(9 人)、中国(2 人)	★書初め	書初めを行い、新年の抱負を発表す る。正月をどのように過ごしたかにつ いて話し合う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	税所久美江、松島昭子
29	平成25年 1月15日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(9 人)、中国(1 人)	電話①	電話での表現を学習する。電話で友 人を自宅に誘うロールプレイを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、税所久美江、松島 昭子、吉新和歌子
30	平成25年 1月22日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(9 人)、中国(1 人)	電話②	電話でレストランや美容院の予約を するロールプレイを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、宋知炫
31	平成25年 1月29日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	12人	インド(10 人)中国(2 人)	電話③	電話で子どもの学校や幼稚園に欠 席・遅刻の連絡をするロールプレイを 行う。学校(幼稚園)の先生と連絡を 取る際の注意点について話し合う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子
32	平成25年 2月5日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(7 人)、中国 (1人)、台 湾(1人)、 エルサルバ ドル(1人)	習慣について 話す	現在の自分や家族の習慣について 話す。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、宋知炫
33	平成25年 2月12日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(7 人)、中国 (1人)、台 湾(1人)、 エルサルバ ドル(1人)	経歴を話す	日本へ来る前、来てから現在までの 経歴を話す。生まれてから現在に至 るまでのライフストーリーのシートを 完成させ、お互いに話し合う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子
34	平成25年 2月19日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(7 人)、中国 (1人)、台 湾(1人)、 エルサルバ ドル(1人)	将来について 話す	これからの自分や家族の予定、希望 を話す。今後日本でしてみたいこと について話し合う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、吉新和 歌子、宋知炫
35	平成25年 2月26日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(7 人)、中国 (1人)、台 湾(1人)、 エルサルバ ドル(1人)	自分の国につ いて説明する	自分の国や出身地域について紹介 する。お互いに聞き合い、最終的に 一まとまりの紹介文を完成させる。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、吉新和 歌子
36	平成25年 3月5日 10:00～ 12:00	2時間	インターカ ルト日本 語学校	10人	インド(7 人)、中国 (1人)、台 湾(1人)、 エルサルバ ドル(1人)	自国と日本を 比較する① (習慣)	冠婚葬祭、見舞い、病気、行事など のテーマに関して、自国と日本の違 いを話し合う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、吉新和 歌子

37	平成25年 3月12日 10:00～ 12:00	2時 間	インターカ ルト日 本語学 校	10人	インド(7 人)、中国 (1人)、台 湾(1人)、 エルサル バドル(1人)	自国と日本を 比較する② (マナー)	自国と日本のマナー・ルールの違い を話し合う。(ゴミ出し、電車内で、食 事中、学校で、など)	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子
38	平成25年 3月19日 10:00～ 12:00	2時 間	インターカ ルト日 本語学 校	11人	インド(8 人)、中国 (1人)、台 湾(1人)、 エルサル バドル(1人)	日本人の家を 訪問	友人宅を訪ねる際のマナーについて 話し、日本人の家を訪問するロール プレイを行う。	有田玲子、田栗春 菜、中館まり子、 中島佐知恵、矢口 奈緒子	上田佳子、松島昭子、吉新和 歌子、宋知炫

(8) 受講者の募集方法

- ・台東区にある外国人レストランにポスター掲示依頼
- ・台東区内の商店街にポスター掲示依頼
- ・台東区内公立・私立幼稚園及び保育園、小児科にチラシ設置依頼→4箇所承諾を得た
- ・前年度参加者に協力依頼(Facebookの活用)

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

①7月17日 保健所の講義「食中毒について」

台東区保健所の方に来校いただき、食中毒に関する講演をお願いした。内容は食中毒による症状、食中毒の予防・対策に関するもの。講演の後、現在どんな予防を行っているか、日本と自国での違いはあるか、などを話し合った。時期的に(7月中旬)適当かと思いきこの時期に設定したが、まだ日本語でのやり取りが難しい学習者にとってはやや難解な内容だったため、今後は実施時期の検討と事前準備が課題である。ただ、保健所の担当者からは「外国人に対してどのように伝えていくか学ぶ機会になった」というご意見をいただき、相互に学び合う機会になったように思う。



② 10月30日 課外活動「スーパーに行こう！」

「買い物」の学習のまとめとして、学校近くにあり参加者もよく利用しているスーパーに行き、実際に買い物をした。この課外活動の前に3週に渡って買い物場面での会話を練習したので、それを実際にスーパーの店員に聞いてみる、という活動を行った。現在の参加者の中にはベジタリアンも多いため、自分が食べられるものを実際に聞けるようになることは非常に重要だったようだ。また、食品に関しても普段疑問に思ってもなかなか聞けないことを日本人指導者に質問したり、それぞれの食材をどのように調理するかで各国の違いを話し合ったり、と教室内ではできない学習ができた。



(10) 目的の達成状況・成果

①地域リソースの活用について

前年度の反省として、地域リソースをより活用していくことが課題となっていたため、今年度はより地域との接点を作ることを目標とした。具体的な取り組みは以下の通りである。

- ・ボランティア指導者の参加
- ・課外活動(近隣スーパー、防災センター)の実施
- ・保健所による講義
- ・写真コンテストの実施
- ・スピーチコンテストへの参加

今回、ボランティア指導者が参加したことにより、学習者はより地域における身近な話題を教室内で共有しやすくなったようだ。また、ボランティアには日本語教室での経験がない者もいたが、年度末にアンケートを行ったところ、「生活者としての外国人と一人ひとり向き合うことができ、大変勉強になった。」という声もあった。地域における日本語教室の在り方を考える機会の提供にもなったのではないかと。

また、スーパーや防災センター、保健所など近隣の施設との接点ができることで、学習者が本当に情報が必要になった際に情報を得る先が広がったように思う。

写真コンテストやスピーチコンテストでは、学校近隣の日本人住民や商店街関係者にも参加していただき、僅かながら接点を作ることができた。

(11)改善点について

- ・前年度からの課題として、地域リソースをより活用していくことを目標とした取組をおこなったが、さらに地域に密着した取組を行っていかねばならない。具体的には、今回はボランティア指導者は当校養成講座修了生が中心となっていたため、学校近隣に住むボランティアの参加も促していく必要がある。また、スーパーやセンターに限らず、商店街での活動の実施など、他の組織や団体と連携をより密に取りながら活動を進めていきたい。
- ・今年度も、学習計画を立てるにあたりニーズ調査としてヒアリングを行ったが、自国のコミュニティに属する(特にインド人)学習者からは、「生活場面よりも文法項目を学習したい」という要望も多く出た。場面の学習と文法項目の学習のバランスが取れており、多様なレベルにも応じたカリキュラム作成が大きな課題となったので、今後もニーズを聞き取りながら検討していきたい。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 地域指導者のための研修 ～入門編・実践編～ [入門編]

- (2) 目的・目標
- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について理解すること普及すること。
 - ・行政の参加を促し、標準的なカリキュラム案の理解と行政主催の日本語教室のあり方をともに考える。
 - ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案の活用方法を共に考える。

[実践編]

- ・他の地域でどのような取り組みや工夫がされているかを知る。
- ・受講生の地域の状況を理解し、地域にあった教室運営を考える。
- ・活動に必要な教材作成のポイントを学ぶ。
- ・学習者を飽きさせない教室運営を受講生の体験を通しともに学ぶ。
- ・活動に必要な教材を作成する。

- (3) 対象者 日本語教室の指導員、地域での日本語指導者、日本語教師

- (4) 開催時間数(回数) 3 時間(4 回) 3.5 時間 (4 回) 全8回

- (5) 使用した教材・リソース 「生活者とし

- (6) 受講者の総数 40 人

(出身・国籍別内訳 日本国 27人 中国3人、インド1人、フィリピン1人、モンゴル1人、ウクライナ1人、ベラルーシ1人)

- (7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	11月5日 10:00～ 13:00	3時間	インターカルト 日本語学校	40人	中国(3人)、インド(1人)、フィリピン(1人)、モンゴル(1人)、ウクライナ(1人)、ベラルーシ(1人)、日本(32人)	多文化子育てセミナー	中国、インド、ベラルーシ、ウクライナ、フィリピン、モンゴルのお母さんたちに自国の子育てと日本での子育てについて、いいところ、良くないと感じるところ、戸惑ったところなど話をしてもらい、その後に台東区の保健師さん、ボランティアの方々と一緒にグループトークをし、違いや自分の考えを共有できる場とする。外国人が主役のセミナー。	中川アレー シャ、スホヴィ ラーナ、福山ア イダ、アルカ ロ ダ、相原ザヤ、 サイ リアンメイ	谷口真理、 萬浪絵里
2	11月30日 10:00～ 13:00	3時間	インターカルト 日本語学校	25人	インド(2人)、日本(23人)	インド式数学を学ぶセミナー	日本語教室の通っているインドのお母さんが講師。九九、掛け算など日本との計算の仕方の違いを知る。日本人が上手に話せなくても表情やしぐさ、伝えようとする気持ちで、理解できることを学ぶ。外国人が主役のセミナー。	ネハ チャー ジャル	谷口真理、 萬浪絵里
3	1月11日 10:00～ 13:00	3時間	インターカルト 日本語学校	23人	日本(23人)	世界の言語学習の潮流から標準的カリキュラム案ができるまで	・世界の言語学習の潮流から標準的カリキュラム案ができるまで ・標準的カリキュラム案の概要	西原鈴子	谷口真理

4	1月18日 10:00～ 13:00	3時間	インターカルト 日本語学校	21人	日本 (21人)	「『日本語が できないから…』はホント？言葉と 文化とコミュニケーション」 ・外国人支援の意義と地域日本語 教室の役割 ・相互理解と異文化 ～文脈とスキーマ～ ・「文化とコミュニケーション」を体 感する活動	神吉宇一	谷口真理
5	2月1日 10:00～ 13:30	3.5時間	インターカルト 日本語学校	20人	日本 (20人)	「生活者として の外国人」に対する 日本語教育の標準的 カリキュラム案とは？ ～5点セット 「わかる」から「使える」 へ～ ・標準的カリキュラム案5点セット の概要と使用法 ・ワークショップ「学習者の活力 になる評価とは？」	加藤早苗	谷口真理
6	2月8日 10:00～ 13:30	3.5時間	インターカルト 日本語学校	15人	日本 (15人)	イラスト入門 講座 ～ コミュニ ケーション・ ツールとし てのイラスト の描き方や 有効な使い 方～ ・日本語学習を行う上でのイラスト の必要性 ・イラストの書き方、有効な使い 方とは	深田みのり	谷口真理
7	2月15日 10:00～ 13:30	3.5時間	インターカルト 日本語学校	15人	日本 (15人)	語彙の勉強！体系的に、そして 興味を持って楽しく学ぼう ～『きらり☆ 日本語N4語 彙』を使って～ ・語彙学習を楽しく、効果的に行 う方法 ・グループ活動「現在の学習者 を対象に、語彙学習の活動案を 作ってみよう」(『きらり☆日本語 N4語彙』を使用して)	齋藤美幸	谷口真理
8	3月1日 10:00～ 13:30	3.5時間	インターカルト 日本語学校	20人	日本 (20人)	実践編 外国 人留学生と いっしょに 作ろう ～イラストを 使った物語 作りに挑戦 ～ ・第4回、第5回講座を組み合わせ た総まとめとして、日本人と外 国人留学生でグループを作り、 イラストを描きながら日本語で物 語を作成して全体に発表した。	齋藤美幸	谷口真理

(8) 受講者の募集方法

- ・台東区交流促進課にチラシ設置依頼。
- ・台東区内、横浜南区、さいたま市のボランティア団体に協力依頼。
- ・HP に掲載
- ・前年度参加者に協力依頼。

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)



(10) 目標の達成状況・成果 毎回、アンケートを実施

毎回アンケートを実施。最終回に全体のアンケートを行う。全体的には、概ね講座内容には満足との回答でしたので、目的はほぼ達成できたと思う。

【感想】

●「多文化子育てセミナー」の感想

- ・日本に住んでいるお母さんという立場の方々のお話が聞けて、とても良かったです。(ボランティア)
- ・外国人のママたちが育児で何を困っておるのか少し知ることができました。ストレスや不安の少ない育児ができる環境作りができればいいと思います。(台東区保健師さん)
- ・カタカナ、ローマ字よりもひらがなであれば何とか読めるということを知ったので、外国人のママにお伝えするときは、ひらがなのものを用意できたらと思います。(台東区保健師さん)
- ・発表に対して不安がって外国人のママたちが、日本語で自信を持って発言していて、とても素晴らしい機会だったと思います。(ボランティア)

●「インド式数学を学ぶセミナー」の感想

- ・先生の教え方がとても上手で、あっという間の時間でした。
- ・日本とインドの計算の違いにびっくりした。友達に教えてあげたい。(小学生)
- ・言葉以上に、先生の伝えたい気持ちが十分に伝わってきて、理解ができることに驚いた(大学生)

●「地域指導者養成講座」の感想

- ・地域の教室においてカリキュラムを提案する際に指標となる生活上の事例があることがわかったので、現場で使用してみます。教師の指導力
- ・評価についてもポートフォリオがあることを知り、自分の指導力を向上させるために活用します。
- ・研究動向とEUのCEERの実際という世界的視野の中で、日本語教室の位置付けができたことで、学習者のみならず自分たちが何を目標としていけばよいのかを考える指針になった。
- ・文化とコミュニケーションの探検隊ごっこは目が覚めるようでした。異文化と出会った時の新鮮さと戸惑いを実感できました。
- ・「皆が仲間になって社会を作っていく」という先生のことばに「多文化共生」の真髓があると胸にストンと落ちた。日々のコミュニケーションの中に互いの変化していくプロセスがあるのだと、あせらずじっくりと取り組んでいきたい。
- ・「5点セット」の概要や活用の仕方のヒントを知った。今後、日本語を教える活動の中で利用したい。
- ・カリキュラム案の概要は理解できたが、あまり知られていないので、PRが必要に思う。
- ・レクチャーは楽しく具体的に楽しかった。グループ討議は、各々の活動状況が分かりあうことができ、新しい発見もあった。
- ・最近学習者さんが減ってきています。その対策の一助となうような内容で、これからの活動に活かしていきたいと思います。
- ・イラストの描くポイントをよく理解できた。素早く描く大切さを学んだ。

・実践的な内容なので、すぐ教室で使えるアイデアをたくさん教えてもらった。絵を描くことが苦手だったが、コツを教えてもらって、少し苦手意識が改善できたと思う。

- ・語彙の増やし方の例を学んで、教室で活かしてみたい。
- ・単語カードを使ったゲーム的な方法で、楽しみながら語彙の習得の深化を図ることのヒントを得た。
- ・語彙を豊かにすることで、日本語の世界を広げられることがわかった。
- ・イラストの持つ意味の重要さが分かった。イラストがあるだけで言葉やストーリーがどんどんわいてきて、楽しかった。イラストを使って物語を作っていくとイメージも膨らんで言葉が出てくることに気がついた。インターカルの学生さんと一緒に楽しめた。

(11) 改善点について

- ・今年度は新たな取組として「外国人主体」のセミナーを運営した。台東区の保健所との連携を図ることはできたが、他の機関との連携が取れなかったため、その点が問題としてこのころ。インド式数学のセミナーは台東区の小、中学校の先生、生徒の参加を目標としたが、その日が通学の日で、日程の設定をする際は、情報を得るべきであった。
- ・講座に関しては、ボランティア団体に幅広く声をかけたが、実際は同じグループの方たちの参加が多く、他の団体も参加できるように、講座の申込み方から内容まで、来年度に向けて再度見直す必要を感じた。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称 「台東区に住むお母さんのための日本語学習教材」

(2) 対象

台東区在住の、来日後間もない日本語学習者。主に子どもを持つ「お母さん」を対象としているが、それ以外にも使用可能。ゼロ～初級程度の日本語学習経験者を中心に、初級後半以上の学習者にはレベルに応じて表現や語彙を追加するなどして対応可能。

(3) 目的・目標

本教材は、今年度本事業で実施した「生活のための日本語教室」の活動の中で行われたロールプレイ活動を動画にしたものである。生活場면을学習する日本語教室での使用を前提としており、指導者が導入としてロールプレイを実演することで、学習者の場面理解を助けることを目的としている。

今回の動画作成にあたり、具体的には以下の点を目的とした。

- ①各生活場面における初級文型の取り上げ方の提示
 - ②複数の指導者によるロールプレイが困難な教室における補助教材としての役割
 - ③動画とスクリプトを用いて学習者と支援者が会話練習をするための教材としての役割
- (4) 構成・総ページ数 55ページ・動画25本
 (5) 教材作成会議の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 5月18日 10:00～ 13:00	3時 間	インターカ ルト 日本語学 校	田栗春菜、中島佐知 恵、有田玲子、矢口 奈緒子、中館まり 子、谷口真理	教材概要の検討	・前年度作成した教材を、今年度どのように活用 し、新たにどんな教材が必要なのかを検討。 ・動画に用いる場面の選択。
2	平成25年 8月10日 10:00～ 12:00	2時 間	インターカ ルト 日本語学 校	田栗春菜、中島佐知 恵、有田玲子、矢口 奈緒子、中館まり 子、谷口真理	課立ての検討	・日本語教室で実施したヒアリングの結果を元 に、教材の課立てを決定。

(6) 使い方

本教材は、生活場面での会話を切り取って動画にしたものである。動画にはスクリプトも付した。教室で各場面での学習の導入を行う際のロールプレイの例として使用できる。また、指導者数が限られており実際にロールプレイを行うのが難しい場合に、動画を用いて学習者に示すことも想定している。学習者が独学で用いる場合も、動画を繰り返し見ることで各場面における会話を練習することができる。また、スクリプトを用いて実際に話す練習を行ったり、スクリプト内に示されたポイントとなる初級文型を取り上げて学習することができる。

(7) 具体的な活用例

本教材は、教材を用いたロールプレイで場面導入を行った後、教室活動に発展させることを目的としている。そのため、以下、教室活動内容を含めた活用例を記載する。

【例：買い物①スーパーのチラシ等から情報を得る】

- ①指導者が近くのスーパーのチラシを見せて、話題を広げる。
- ②教室内で、指導者がロールプレイを行う(実際のロールプレイが難しい場合は、教材の動画を見せる)。
- ③ロールプレイで提示した話題に関して、指導者と話す。
(チラシの情報の読み取り、価格に関して意見交換、ふだん買い物する場所など)
- ④ロールプレイのスキットを用いて会話練習

(8) 成果物の添付 提出済

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的 今年度も「生活場面とのつながり」「社会参加」「課題解決」「対話による相互理解と協働」「外国人当事者の参画」「自己表現」をキーワードとする。その達成のために、外国人(学習者としての外国人と、すでに日本社会で生きる外国人)、日本人(日本語指導者と、近隣に住む日本人)、それらすべてが参画する形で成立する「日本語教室」の開設。標準的カリキュラム案の普及を目的とし、地域において中心的担い手となる「人材の養成・育成」、生活者としての外国人のニーズにあった「学習教材」プログラムを作成していく。

企画にあたっては、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案、ガイドブック、教材例集、能力評価を参考にし、地域に根ざした独自の、効果的・実践的なプログラム内容の完成を目指す。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

3つの取組に共通して、日本語教室参加者(学習者・ボランティアも含めた指導者)、講座参加者、教材作成者にアンケート調査を行った。全ての取組において、「地域に密着した日本語教育の重要性を感じる」という意見を得ることができた。今年度は地域との連携を強化することを目標としていたため、きっかけ作りとして、様々な立場の方に問題提起ができたのではないかと。また、今年度は新たな取組として「外国人主体」の講座を運営したことで、日本人と外国人の生活者が共に学び合う機会を作ることができた。地域住民との連携を図っていくためには、今後も続けていく意義があるだろう。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

今年度もカリキュラム案を使用して、学習者のニーズ調査を行った。調査を行う側が事前に場面を想定できていたことにより、学習者も具体的にニーズが挙げやすくなったのではないかと。ただ、学習者の中には場面よりも文法項目を主体にしたカリキュラムで学びたいというニーズもあり、仮にそのようなカリキュラムを作成した場合、カリキュラム案との関連性に疑問が生じることがわかった。今後は、各地の現状に沿いながらカリキュラム案の理念をどのように反映させていくか、ということが課題であるように思う。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

「外国人主体」のセミナーを運営した。新たに台東区の保健所との連携を図ることはできた。日本で出産した外国人のお母さんに対して、「日本の育児を押し付けているのでは」といつも疑問を持っていたが、このセミナーを通して、「違うことが当たり前」との認識が持てたことで、今後の保健師の仕事に生きてくるとの感想を頂いた。子供を持つお母さんたちが日本語を学べる場が台東区にあることがわかったことで、情報を提供できることは大きい成果であるとのご意見も頂いた。また、台東区の幼稚園を管轄している教育支援室の担当者とは、毎年、台東区に住む外国人児童や母親の状況など情報交換などができている。外国人主体のPHOTO CONTESTを近くの商店街で今年も実施した。その際、会長、副会長の協力がある中、商店街の行事の1つとして認知していただいている。地域に住む外国人と日本人とのつながる接点を作る役割りとなっている。

(5) 改善点、今後の課題について

3つの取組に共通して、台東区(行政)との連携が強化できていないことが大きな課題である。今年度は台東区保健所との連携を図る取組を行い、日本語教室・指導者養成の取組の中では、他ボランティア団体関係者との情報交換はできたが、行政との直接的な関係を持って企画を運営することができなかった。今後、更に情報交換等を行っていく必要がある。また、今回はインド人コミュニティという特性を活かしてインド数学セミナー等を開講したが、コミュニティの中には日本語教育に対する多様なニーズがあり、それを引き出して他の日本人住民とも繋げる企画を行っていく必要があるだろう。そのために、外国人・日本人のニーズを引き出す場を作っていかなければならない。

平成 25 年度文化庁日本語教育委託事業
主催：インターカルト日本語学校「あい・たいとう」プロジェクト

ちいき にほんごきょうしつ 地域の日本語教室



まいしゅうすいようび ごぜん
毎週水曜日 午前10:00～12:00

◆開催日時：5月22日(水)～3月19日(水)
(都合によりお休みの場合もあります)

※何月からでも参加できます！

<毎週水曜日>午前10時00分～12時00分

◆場所：インターカルト日本語学校 (裏面地図参照)

◆対象者：台東区在住・在勤の外国人の方

※日本語の勉強が初めての方でも大丈夫です

※小さなお子さんがある方も一緒に来られます

◆学習内容：生活に関する日本語

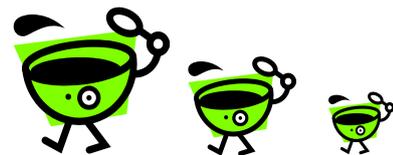
(買い物をする、病院で、地震に備える…など)

◆参加方法：参加希望の方は谷口までご連絡ください

(問い合わせ先は裏面参照)



病気の時、地震の時、日本語で困ることはありませんか？
もっと日本人と日本語で話したいと思うことはありませんか？
「生活の中で使える日本語」を一緒に話しましょう！



<お問い合わせ Application and Inquires >

インターカルト日本語学校

東京都台東区台東 2-20-9

月・火・水・木・金 9:00~17:00

Intercultural Institute of Japan

2-20-9 Taito Taito-ku Tokyo

Mon, Tue, Thu, Fri, Sat 9am ~ 5pm

TEL: 03-5816-5019 FAX: 03-5816-4862

担当 : 谷口 Taniguchi